

第6章 復興に向けた取り組み

6-1 河川堤防復旧における地域の震災復興と調整

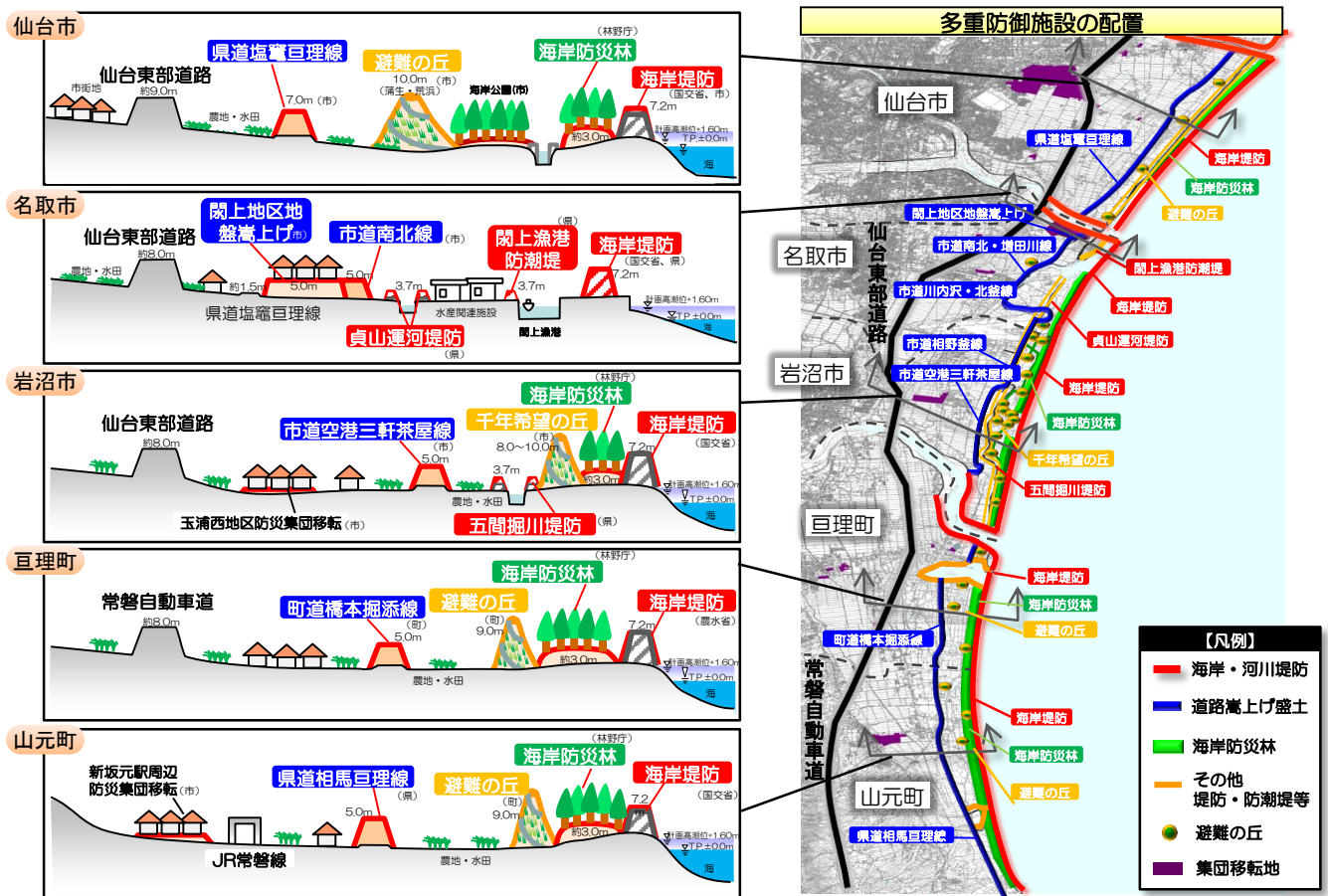
6-1-1 地域の震災復興計画との調整

津波に対する防災・減災に向けて“河川・海岸堤防や嵩上げ道路等のハード対策”と“避難を中心としたソフト対策”を組み合わせる『多重防御』を目指す『多重防御』の取り組みを地域一丸となって進めている。

『多重防御』の一翼を担う粘り強い河川(河口部)・海岸堤防が国土交通省の災害復旧事業により完成して、浸水面積の軽減や避難時間の確保など、安全・安心のまちづくりが大きく前進する。

【多重防御の着実な推進と整備効果について】

- 仙台湾南部沿岸の地域(仙台市、名取市、岩沼市、亶理町、山元町)は、震災復興のまちづくりにおいて、『多重防御』による津波防災・減災の取り組みを進めている
- 具体的には、海岸堤防は津波が越流しても全壊に至るまでの時間を少しでも長くする「粘り強い堤防」として国土交通省等による復旧を行うとともに、背後地では林野庁による海岸防災林の復旧、県による貞山運河の堤防嵩上げ、県、市、町による道路の嵩上げや避難の丘の整備などによるハード対策と、市、町による災害危険区域の設定や集団移転、防災教育や避難訓練などのソフト対策を組み合わせたまちづくりが着実に進められている
- これらの『多重防御』により、比較的発生頻度の高い津波に対して浸水を防ぐとともに、堤防高さを越える津波に対しても、堤防が粘り強く機能を発揮することで、浸水面積の軽減や避難時間の確保が一定程度期待される
- なお、東日本大震災級の巨大津波(約14m)が来襲した場合、津波の越流水深が大きい、あるいは越流時間が長いと粘り強く機能を発揮することは難しくなるが、仮に海岸堤防などの防御施設が壊れないとしたならば、整備前に約16,000haの浸水面積は、半分の約8,000haまで軽減するほか、住民の避難のための時間を約5分稼ぐ効果が試算として見込まれる



阿武隈川下流 亶理町荒浜地区の復興状況



H30.9.28撮影

安全・安心・元気のあるまち

- ◆防災集団移転事業、復興公営住宅が整備され順次入居開始 (平成27年完了)
- ◆海辺の観光の中心として荒浜地区のにぎわいを取り戻す「わたり温泉鳥の海」の再開、「にぎわい回廊商店街」のオープン (温泉施設: 平成26年10月4日再開、にぎわい回廊: 平成27年3月開設)
- ◆仙台圏への通勤・通学手段となるJR常磐線の再開と常磐自動車道の鳥の海スマートICの開設 (仙台～亶理区間: 平成23年4月、浜吉田駅: 平成25年3月運行再開)



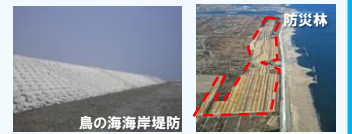
亶理ブランド産業の復興

- ◆約70haを集約した高付加価値型施設園芸としていちご団地の復興 (平成25年度完了)
- ◆効率的な農業を実現する被災農地7地区のほ場整備や農業近代化施設整備を推進 (平成28年度完了)
- ◆被災した荷捌き所や漁港施設の復旧により水産業を再開し、漁獲量は徐々に回復 (平成23年6月水揚げ再開、平成28年4月貯水庫完成)



減災機能の強化

- ◆町道橋本堀添線等の嵩上げ工事が進行中 (平成30年度完成予定)
- ◆鳥の海を囲む海岸堤防や漁港内防潮堤を整備中 (平成29年度完成)
- ◆海岸防災林復旧事業が進行中 (平成24年より復旧工事)
- ◆防災公園や内陸部への避難路整備 (防災公園避難丘: 平成28年度完成、避難路: 平成25年度着工)



平成27年12月撮影

阿武隈川下流 岩沼市寺島地区の復興状況



H30.9.28撮影

安全な暮らしの確保

- ◆防災集団移転地、復興公営住宅が整備され順次入居開始
(平成26年より入居開始、平成27年3月完成)
- ◆住民のくらしを支える南浜中央病院、東部環境センター、浄化センター等の復旧・再開
(平成29年11月にフルオープン)



農業の再生と多角化

- ◆被災農地のがれき撤去、除塩、ほ場整備等により営農再開
(平成27年度完了)
- ◆早期営農再開のため農業復興総合支援事業によりライスセンター4地区、育苗施設・ハウス、農業機械等を整備
(平成26年度完了)



空港中心の産業復興

- ◆岩沼市の経済を支える臨空工業団地の再開
(平成23年より順次再開)
- ◆隣接する矢野目西地区土地区画整備事業着手
(平成29年より平成32年)
- ◆自然エネルギーを活用した自然共生都市を目指す、大規模な太陽光発電施設の誘致
(臨空メガソーラー：平成27年4月稼働)



減災機能の強化

- ◆市道空港三軒茶屋線等の嵩上げ工事が進行中
(平成29年度完成)
- ◆海岸防災林復旧事業が進行中
(平成31年完了予定)
- ◆津波被災と津波痕跡を後世に伝える千年希望の丘と園路の整備
(平成29年完了)



平成27年7月撮影

名取川 名取市関上地区の復興状況



関上・下増田のまち再生

- ◆関上地区の集団移転地、土地区画整理で住宅を造成・建設 (平成29年度完成)
- ◆下増田地区の集団移転地及び復興公営住宅は完成 (平成27年7月完成)



地域に根付いた農業

- ◆被災農地の大規模ほ場整備や除塩により沿岸地区での農業再開 (平成30年完成)
- ◆被災農家で組織した生産法人等による大規模ハウス栽培の再開 (北釜地区・平成27年5月再開)



地域資源を生かした産業

- ◆ゆりあげ港朝市の営業再開により約3万人/月のにぎわい (平成25年5月より営業再開)
- ◆水産加工団地の整備による関上水産業の本格復興 (9社が平成29年9月より稼働)
- ◆仙台空港アクセス線の再開により復興需要で増加する空港利用者の利便性向上 (平成23年10月運行再開)



減災機能の強化

- ◆市道南北・増田川線等の高上げ工事が進行中 (平成31年度完成予定)
- ◆海岸防災林復旧事業が進行中 (平成24年より復旧工事)
- ◆貞山運河等の堤防復旧中 (平成32年完成)
- ◆水防活動の拠点となる河川防災ステーションの新規整備 (平成27年事業化、平成32年完成予定)



名取川 仙台市藤塚地区の復興状況



H30.8.23撮影

安全な住まいの確保

- ◆防災集団移転により安全な場所に宅地造成・住宅建築 (平成28年度完了)
- ◆復興公営住宅を整備 (平成28年度全棟完成)
- ◆市内汚水処理の約7割を担う南蒲生浄化センターの復旧 (平成28年4月より全系列運転再開)

防災集団移転 (六郷地区:平成27年3月完成) / 完成した復興公営住宅 (荒井東地区:平成27年6月完成)

力強い農業の再生

- ◆被災地域における大規模ほ場整備や農地集積などにより生産性の高い農業を推進 (平成32年度ほ場整備完了予定)
- ◆農業特区では先進的施設園芸等の新しい農業経営モデルが進行 (平成27年度完了)
- ◆農業振興の拠点となる農業園芸センターの再整備 (平成28年4月より再開)

大規模養液栽培ハウス / 農業園芸センター

土地等の有効活用

- ◆津波防災機能とスポーツ・レクリエーション・レジャー施設を兼ね備えた海岸公園の再整備 (平成28年10月より順次施設再開 平成30年度復旧完了)

海岸公園(藤塚地区) / 海岸公園(井土地区)

減災機能の強化

- ◆東部復興道路(県道塩釜巨理線等)の高上げ工事が進行中 (平成30年度完成)
- ◆津波・高潮や飛砂、塩害等から守る海岸防災林復旧事業が進行中 (平成32年度完成予定)
- ◆津波浸水区域内の津波避難施設の整備 (平成28年度に全13基完成)

津波避難施設(タワー型) / 東部復興道路



平成27年7月撮影

名取市の例

- 名取市では、被災した閑上地区の復興にあたり、一次防御ラインとなる名取川堤防や海岸堤防の強化(嵩上げ等)に加え、盛土等で補強(盤上げ)した市街地を形成し、これらとともに、嵩上した道路等(二次防御ライン)を連続配置することで、「多重防御」を図ります
- 名取川堤防の整備にあたっては、地域の復興計画と調整を図りつつ、進めています



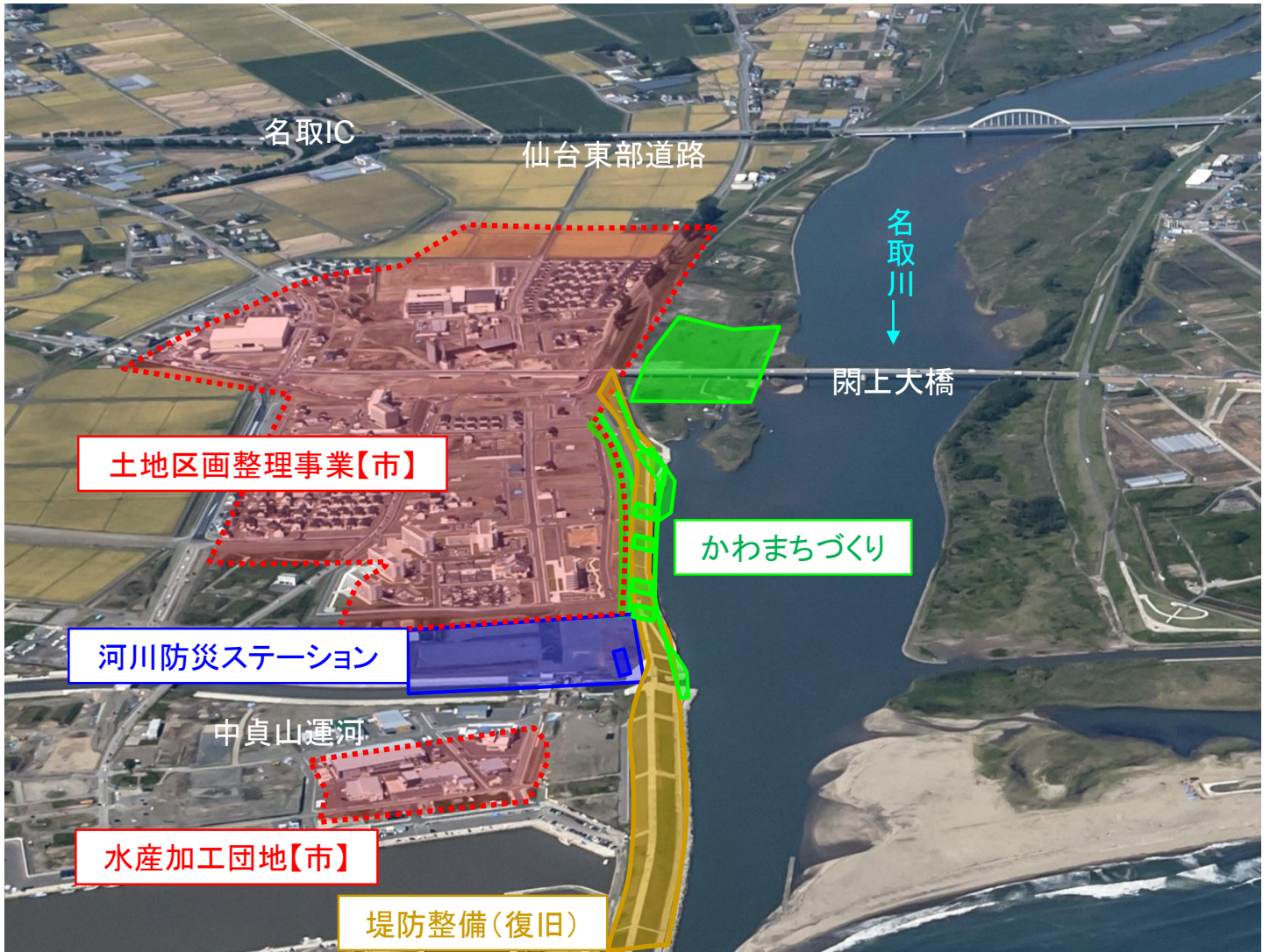
閑上地区土地利用計画 出典：閑上復興まちづくり全体説明会(平成25年8月17日)

- 整備にあたっては、多数の関係機関との調整が必要となるため、市、県、国の関係機関が一同に会して、「復興連絡調整会議」を毎月1回の頻度で開催しています



6-1-2 「かわまちづくり」・「河川防災ステーション」の整備

- 東日本大震災で甚大な被害を受け、復興まちづくりを進める名取市閑上地区について、水辺空間と一体となった賑わいのあるまちづくりを実施する「かわまちづくり」と、洪水等緊急時の復旧を迅速に行うための拠点となる「河川防災ステーション」の整備を行い、閑上地区の復興・再建を支援します



・平成27年12月25日に、名取市長へかわまちづくり計画の登録証を伝達しました
あわせて、河川防災ステーション計画の承認について報告しました

防災ステーションの概要

- 事前に必要な緊急用資材を備蓄するとともに、洪水時には自治体の水防活動を支援し、緊急復旧を迅速に行う基地を整備
- 平常時には、地域の人々のコミュニケーションの場、河川を中心とした文化活動の拠点などとして活用



整備イメージ(緊急時)



【平常時の活用】

- ・地域のコミュニティスペース
- ・水防活動の訓練等
- ・防災学習や情報発信として水防センターを活用

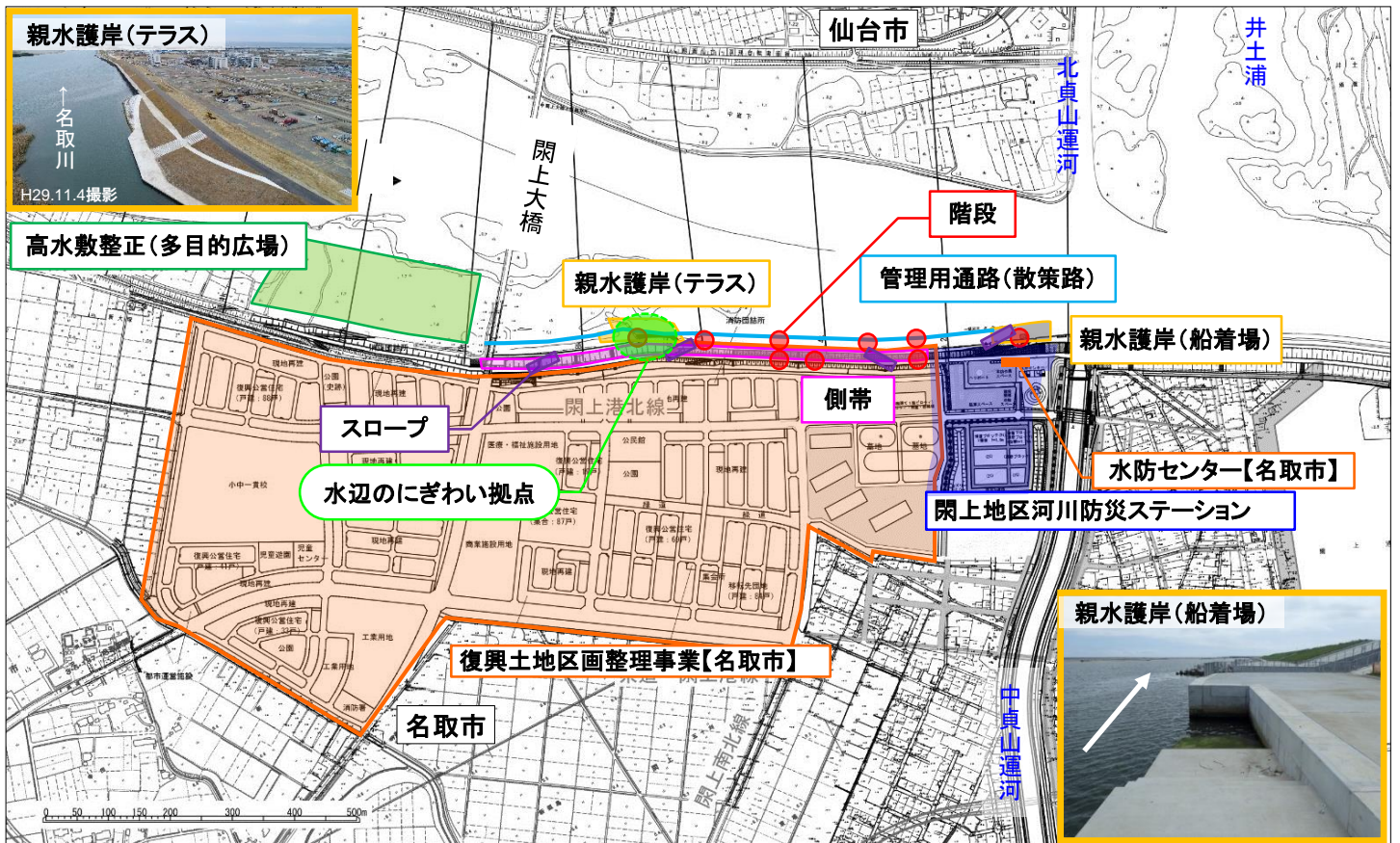


【災害時の活用】

- ・洪水時等の現地対策本部
- ・緊急用資材備蓄、災害対策車両基地
- ・水防倉庫、水防団の待機場所
- ・一般住民の避難場所

閑上地区かわまちづくりの概要

- 再建される閑上の市街地と名取川の河川空間とのアクセスを容易にする階段や管理用通路、様々なイベントでの活用や広々とした河川空間を満喫できる広場などの整備により、河川堤防の背後にあるまちと一体となった賑わいのある水辺空間を創出します



かわまちづくり計画平面図



側帯(にぎわい拠点)

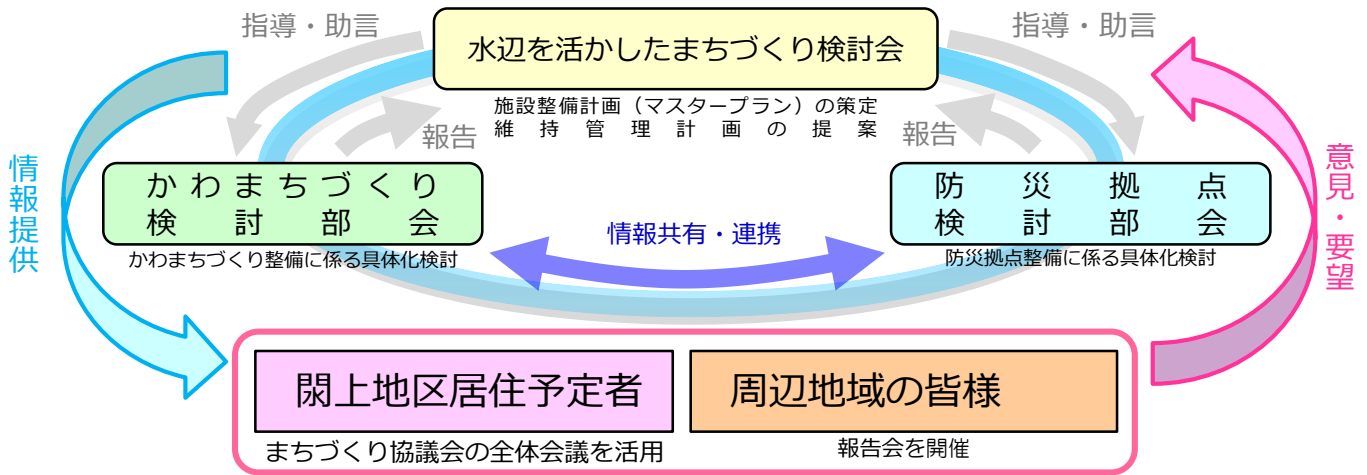


高水敷整正(多目的広場)

整備イメージ

水辺を活かしたまちづくりの概要

- 「水辺を活かしたまちづくり検討会」、「閑上地区防災拠点検討部会」、「閑上地区かわまちづくり検討部会」を設立し、学識者、地域住民、関係機関から指導・助言を頂きながら施設整備計画等の策定を進めております。また、報告会等により地域の意見・要望を聴取し、計画・設計等へ反映させて検討を進めております



水辺を活かしたまちづくり検討体系

